

●国体の遺産受け継ぐ

農業の町・新富は、レガッタの町でもある。富田浜の入り江に県内ただ一つの漕艇（そうてい）場があり、毎年六、七月には町主催のレガッタ大会が開かれている。

新富とレガッタの関係は一九七九（昭和五十四）年の宮崎国民体育大会で、同町が漕艇競技会場になったのがきっかけ。当初は同競技に対する町民の関心も低く、町も盛り上げに苦労した。そうした中、全県的に県民参加で宮崎国体を成功させようという機運が高まり、町は意識高揚の狙いから、国体前年の七八（同五十二年）、町民レガッタを開催した。

本格的に「レガッタの町」としてスタートを切ったのは宮崎国体後の八二（同五十七）年。国体の遺産を受け継ぐため、第一回町民レガッタを企画、以来、町民手づくりの大会として続いている。昨年から町外にも広く参加を求め

ようと、大会名を「町民レガッタ」から「しんとみレガッタ」に改め、レガッタを地域おこしの一つに位置付けている。

悩みは県内ではまだ未成熟競技で、競技人口も少ないこと。そこで関係者では地域おこしに結び付けるためにも底辺拡充を図ろうと、昨年四月から毎週土曜日、同漕艇場で県ボート協会による中学生などを対象のボート教室を始めた。その結果、昨年の第二十一回大会には初めて中学生クルーも参加。

種目はナックルフォア。一艇に五人が乗り、タイムを競う。公式レースは千メートルだが、同大会は五百メートル。参加は町内の消防団、職場、航空自衛隊新田原基地チームが中心で、鮮やかなオーラさばきを見せるチームがある一方では、急ごしらえで、五人の息が合わずになかなか前に進まないボートもあり、会場は毎年、和やかな雰



01年に新富で開かれた全国市町村交流レガッタ大会。「レガッタの町」を全国に発信

囲気に包まれる。

町民の連帯感を深めるのにも一役買っており、今では町を代表するイベントとして定着している。現在、漕艇場を持つ自治体で構成する「全国ボート場所在市町村協議会」に加盟しているところが二十七市町村あり、毎年交流レガッタを開いている。新富では二〇〇一（平成十三）年に開催。大会には各市町村の優勝クルーが出場、これまでには新富の代表クルーが優勝したこともある。

野菜の町に根付いたレガッタ。「宮崎ではマイナーなスポーツだが、新富町が発信基地になり、地道に普及を図っていきたい」。レガッタに寄せる町の思いは深い。

新富町企画商工課